

# 常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

令和 5年 2月 3日(金)

節分 通算 301号

## ◇ 歩みたしかに 気持ちの晴れる 坂路かな

写真は、車両用通用門の坂路を登った上方から米山橋方面を撮影したものの。左右の壁面をよく見ると、赤破線-----を境として色味が異なることが分かる。



境界付近の赤丸Aと青丸B各々を拡大したものが下の写真である。



同様に見えるAとBだが、左右の壁面は状態が異なる。  
Aは2年前に高圧洗浄のみを行い、そのまま放置してあったものを山田校務員が行った塗装の(前)・(後)を表す。



対して壁面Bは、上方に手を伸ばせば何とか塗装が可能であったことから、自分が2年前に全面再塗装を終えている壁面だ。にもかかわらず、塗装済みのB1が2年後に無塗装のA1と同様に、状態の差異が(未)・(済)で明確に確認できる状態であるのには理由がある。

B1を上部から撮影した写真がB2。壁面上部の色が矢印を境にツートン色になっているのが確認できる。これは、塗装の有無である。つまり、2年あまりで未塗装部分でコケが再繁殖し、流れ落ちた結果がB1だ。



右写真 **B3**は、壁面上部を撮影したもの。

一見して確認できるように、塗装してある部分にはコケ繁殖の痕跡すらない。よって、数的にみても、コケ自体が圧倒的に少量であり、たとえ壁面に流れ落ちたとしても、再繁殖には至らなつたと考えられる。



裏面写真に話を戻す。

**B1**に見られる境界線がジグザグになっているのは、通用門から吹き上げる風がコケを追いやったことが要因として考えられる。生活上はあまり感じないのだが…。

同時期の2年前の塗装をした箇所が、黄色の囲み枠の**C**。こちらは上部まで塗装をしてあったため、砂流れ等のコケが再繁殖しやすい環境にあったものの、状態を保っている。塗装効果は「てきめん」であることが証明されたわけだ。

今になって思えば、<sup>きやたつ</sup>脚立でも準備すれば壁面上部全面を塗装できたはずであり、『これぐらいいいか…』と手抜きをした「つけ」が、こんな形で表れた。

何度も言うが、たったの2年だ。自然の力は<sup>きやうい</sup>脅威。甘く見てはいけない。



さて、未塗装であった**A**の壁面も**B**と同様にコケが再繁殖していたかと言え、そうではない。

**A2**では、洗浄から若干黒みを増しているとはいえ、黒ずみの要因は流れ砂で、コケは<sup>ごくわず</sup>極僅かだ。これは壁面が<sup>りつめん</sup>立面であるがゆえ、コケが定着する前に風雨等で流れ落ち、再繁殖には至らなかつたのであろう。

さらに**B**との違いは、壁面上部が成長した樹木で覆われ、コケが繁殖する余地が無かつた、もしくは、常に葉や枝に触れることで、コケの定着までには至らなかつたようである。環境的には、樹木により日陰ができ、風雨から守られている。一般的に見ればコケが繁殖しやすいように思えるのだが、不思議である。

壁面塗装の作業に当たってくれるのは、山田校務員。仕事の順位を考えながら、環境美化・環境づくりに尽力する計画的な仕事ぶりには、本当に頭が下がる。

数日もすれば、**B**側の再塗装を含めた通用門からの壁面塗装は完了するだろう。真っ白になった両壁面を抜けて乗用車で坂を上る来訪者の気持ちも、晴れること間違いなしだ。さらに山田校務員によれば、壁面塗装施工後は、桜階段の植え込みの「段差壁面」も再塗装してくださるとのこと。白い壁面と対照的な緑の樹木。春になれば、ここに桜色も加わり、すくすくと健全に育つ子供の成長を後押しする。